

栃木県及び周辺の地震活動（令和 7 年 4 月）

【地震活動概況】

今期間、県内で震度 3 以上を観測した地震はありませんでした（前月 1 回）。

期間内の県内の最大震度は 2 で、震度 1 以上を観測した地震は 8 回（前月 6 回）ありました。

【栃木県及び周辺の地震活動】

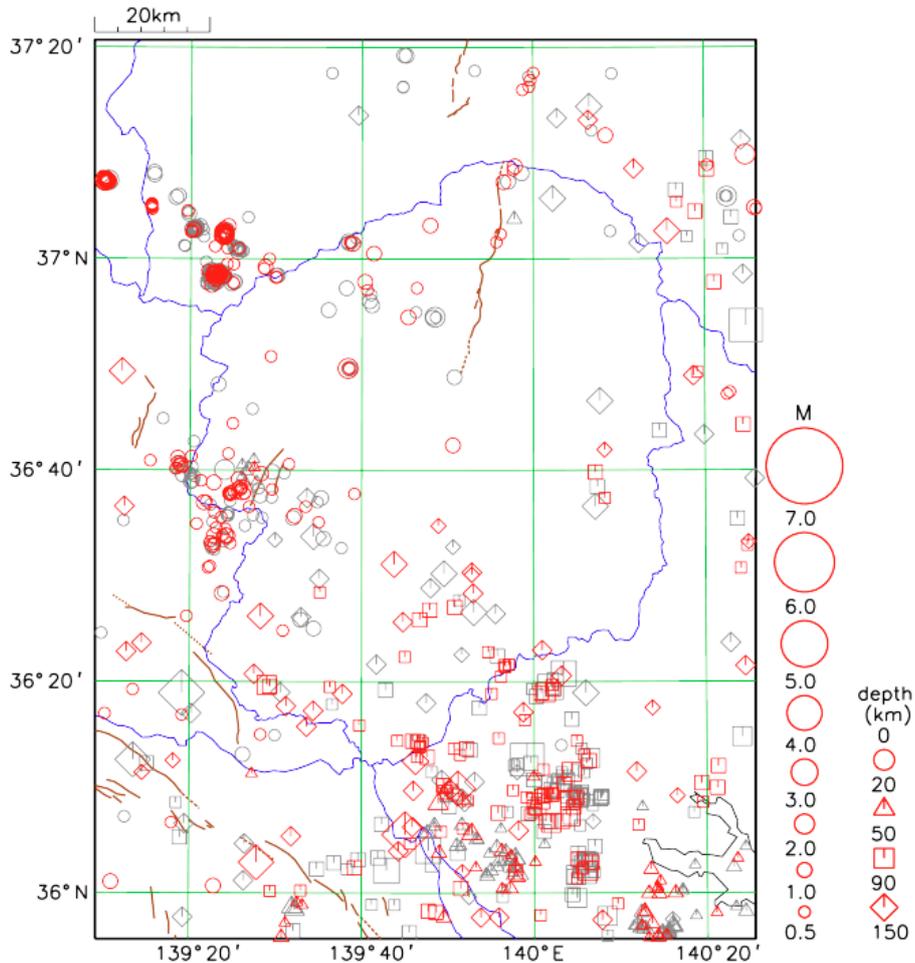


図 1 震央分布図（2025 年 3 月 1 日～2025 年 4 月 30 日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・Mはマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』（国土地理院）を加工して作成した。

【4月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード [*]	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	4月1日	21時33分	茨城県南部	36° 09.8'	139° 51.1'	102	3.7	2	1
2	4月7日	9時52分	千葉県東方沖	35° 50.2'	140° 53.6'	32	4.8	3	1
3	4月10日	10時13分	福島県沖	37° 01.0'	141° 09.0'	49	4.2	2	2
4	4月10日	21時09分	茨城県北部	36° 29.0'	140° 32.1'	58	3.4	1	1
5	4月18日	20時19分	長野県北部	36° 28.1'	137° 54.8'	13	5.1	5弱	1
6	4月20日	15時11分	千葉県北東部	35° 34.4'	140° 20.5'	75	4.3	2	1
7	4月21日	22時11分	埼玉県南部	36° 05.5'	139° 45.0'	111	4.3	2	2
8	4月22日	1時48分	福島県沖	37° 28.9'	141° 35.2'	45	4.3	3	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

【震央分布図範囲内の地震】

今期間中、県内を震源とする震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【防災メモ】家具の固定について

家の中で突然の大きな揺れに襲われた時、私たちにとって最も危険なのは家具の転倒や落下です。大きな地震の時には重い家具であっても不規則に動き、場合によっては倒れてしまいます。もし私たちがそれに巻き込まれれば、大けがをしたり命に係わることもあるでしょう。また、地震は昼夜関係なく発生しますから、就寝時であれば逃げることもできないでしょう。

さらに、家具が転倒すると避難の妨げにもなります。玄関にある棚が倒れてしまい外に出ることができない、廊下が塞がって通れない、ドアが開かない等、家具が障害物となってしまうこともあるのです。

こうした被害を防ぐには、家具の固定をしておくのが何より重要です。図2は震度6強の揺れを再現した実験を行い、家具の固定器具の転倒防止効果を調べたものです。これをみると、家具が移動しないよう下部に設置するストッパー式やマット式、転倒を防止するために上部に設置するポール式等、様々な固定手法の中でL型金具が最も効果が高いことがわかります。しかし、L型金具で固定する方法が最も効果が高いと言われても、家具や家の壁に穴を開けることに抵抗がある方も少なくないでしょう。そんな方にはマット式とポール式、あるいはストッパー式とポール式を併用するのがおすすめです。単独使用では効果が小さいストッパー式やマット式、ポール式ではありますが、併用することでL型金具と同等の効果があることがわかっています。

内閣府による「防災に関する世論調査（令和4年12月）」によれば、大きな地震への備えとして「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と回答した方の割合は35.9%にとどまっており、家そのものの耐震化率に比べてとても低い数値となっているのが現状です。大きな地震の揺れに家が耐えられても、中の家具の固定をしていなかったばっかりに・・・、ということにならないよう、少しずつでも対策をしていきましょう。まずはお住まいの家の中でこの家具が倒れたら危険だな、避難する時に邪魔になるな、という個所だけでも、今日から対策を始めてみてはいかがでしょうか。

・「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」（東京消防庁HP）

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/learning/elib/kagutenhandbook.html>

・防災に関する世論調査（内閣府HP）

<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-bousai/>

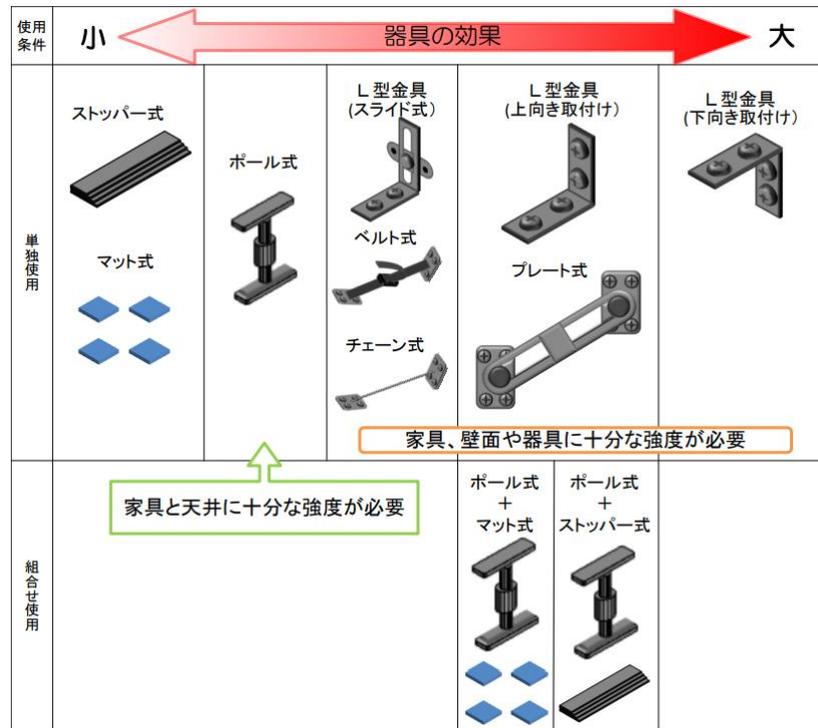


図2 地震動に対する対策器具の効果（「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」より）

ストッパー式やマット式は単独では転倒防止措置として不十分であるが、ポール式と組み合わせることでL型金具と同等の効果が期待できる。また、ポール式やL型金具等は取り付け部分の強度に留意し、必要に応じて当て板等で補強をする必要がある。

資料についての問い合わせ先：宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260